

職員による自己評価

A環境面

- ・スペースやバリアフリー化はなされている。

人員も適切である。

- ・職員配置によって活動が限られてしまう。

B児童への支援内容

- ・活動は概ねできている。活動内容が固定化したり役割をもう少し明確化すると良い。

- ・職員によって内容が変わっている。

C関係機関との連携

- ・基本的にはできている。

- ・学校や各事業所と情報共有している。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者との関係は良好である。

- ・電話や送迎時等で直接話をしたり保護者会等で交流している。

E非常対応

- ・会議等で実施しているため基本的にはできている。

- ・定期的に訓練を行ったり、会議等で研修を行う。

保護者による評価

A環境面

- ・バリアフリー化や人員は適切である。

- ・高齢職員が多く不安。

B児童への支援内容

- ・概ね満足している。

- ・長期休み中の外出、遠出はありがたい。

C事業所からの情報発信

- ・関係も良好であり、面談やノートで情報は伝わっている。

- ・連絡帳の活用より、写真などあるとさらに良い。

D非常対応

- ・ノート等に記載しているので概ね伝わっている。

- ・定期的に避難訓練やアレルギー発作時対応等の研修を行っているが、ご家族に伝わっていない。

事業所内での分析

【共通点】

- ・バリアフリー化もなされスペースはとれている。

- ・活動もしっかり取り組まれている。

- ・保護者との関係も良好である。

- ・職員によって活動や支援が変わってしまう。

【相違点】

- ・比較的少ないと思う。

- ・避難訓練の実施が伝わりにくい。

- ・避難訓練や研修を定期的に行っているが保護者に周知していない。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・バリアフリー化がなされスペースは比較的取れている。
- ・保護者との関係も良いし満足されている。
- ・会議等で利用者の情報を共有したり、振り返りをしている。
- ・マニュアルを共有している。
- ・個々に合わせて支援、対応ができる。

事業所の改善点

- ・職員間（正職、パート）でデイサービス計画や活動の細かいところがつたわっていないことがある。事務的な面で共有がほしい。
- ・プログラムや人の配置が偏ってしまうことがある。
- ・支援者の高齢化や体力等によっては子ども達の動きや力についていけない時がある。

事業所の改善への取り組み

- ・曜日によって職員の配置が違うため、他の曜日で気になる事があればパート職員へ伝えられたと思う。
- ・保護者とのやりとりが比較的良好なため、引き続き情報を提供していく。
- ・プログラムが固定しないように外や室内での活動に様々な意見を取り入れていく。
- ・常に振り返りや会議等で情報共有しながら子ども達の動きを予測しながら活動を組んだり支援していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・アンケートをとって職員と保護者で大きな相違点が無かったと思う。そのため小さな相違点で保護者との関係をより密にするために面談や送りに行った際にきちんと保護者へ答えられるよう職員同士の連携をより密にしていきたいと考える。
- ・しっかり伝えたと思っても相手に伝わっていない事もあるため情報共有をよりしていきたいと思う。
 - ・職員の体力的な事に不安を感じている。